

「議会のあり方検討会」が再始動

尾張旭市議会では、昨年度まで2年間続けられた「議会のあり方検討会」を再設置し、議論をはじめました。

7月20日に開かれた「あり方検討会」へは、議員から43議題が持ち寄り、提案内容について説明がされました。今後、重複内容や優先順位を検討し議論が進められてゆくこととなります。

党市議団は

6項目を提案

- ① 議会報告会の開催
 - ② 議会モニター制度の設置
 - ③ 市議会ホームページの充実
 - ④ 議員FAXの廃止
 - ⑤ 各派代表者会・全員協議会の公開
 - ⑥ 議員報酬についての論点整理、
- の6項目を提案しました。

議会改革の根本は 住民と議会との 関係改善

自治体議会改革フォーラム編「議会改革白書

2010年版」の序文では「現在取り組まれている自治体議会の改革メニューの中には、何種類かの質の異なるものが含まれている」として、おおまかには次の5つに分類されるとしています。

- ① 議会の審議方法の改革
- ② 議会の情報の公開や積極的な発信
- ③ 議会の経費の改革（減額）
- ④ 議会の政策機能の強化
- ⑤ 市民と議会との関係づくり
- ⑥ ⑤は比較的新しい改革事例です。

は、⑤の取組みこそ議会改革の根本であり、究極目標だとして、その理由を以下のように説明しています。

「議会改革に取り組む議会が過半数になっている現在でも、議会改革への関心は高くない。そもそも自治体議会に対する関心は低いのが現実であり、せいぜい人気のある首長の目玉政策を否決したり修正したときにはじめて、議会に注目が集まるといふ状況が続いている。そして、最近の名古屋市議会の事例が示すように③の観点だけからの「議会改革」提案だけが注目を集め、拍手喝采を集めるという場面が登場することになりがちである。

このような事態が生じるのは、現時点においては議会が市民との間に、主権者である市民とその代表である議

会という関係を実感できるといふつながりを構築できていないということに起因する。（中略）

住民が議会を自分たちの意思決定機関として実感できるような、市民と議会との関係を作ることができたときに、自治体の議会は、住民自治を実現しながら地方自治体の団体自治を實行してゆく機関となりうる。

議会がそのような機関となることは、自治体議会本来のあり方そのものであり、また、それが現実にはなかなか実現できていない、最も重要な課題である。」

党市議団が提案している、議会報告会の開催（共産党単独での議会報告会は6月市議会終了後にも開催しましたが、ここでは市議会が主催して開くものこと）や、議会モニター制度は、住民と市議会との関係を変えてゆく道具です。

地方自治をホンモノにするために議会（議員）も住民も努力をしてゆく時代になってきました。

7.23浜岡原発の永久停止・廃炉を求める静岡県大集会

尾張旭市からは約30名の参加

7月23日（土）静岡県駿府公園で開かれた「浜岡原発の永久停止・廃炉を求める静岡県大集会」に、赤旗読者の皆さんと参加しました。

朝8時、尾張旭駅から25名、途中、長久手役場で6名が乗車し31名でバスで出かけました。

暑さが心配されましたが、会場では風がほどよく吹き、気になりませんでした。集会参加者は5000人超。

会場に着くと湖西市市長のあいさつがちょうどはじまり、集会への賛同が自治体首長・議長に広がっていることなどを話していました。（右写真）

集会後、駿府公園を起点に3つに別れて、市内を行進。報道では行進参加者は3500人と伝えられています。

右端写真は行進に参加した川村議員（右）と榊原氏（左）

